

# 中国 路地裏経済漫歩

たゆまぬ語学の鍛錬とともに、幅広い知識の習得と経験による熟練が求められる通訳という職業。

中国では、通訳は熟練度によって「信」=言葉に忠実な通訳、「達」=正確に意思が伝わる通訳、「雅」=真に優雅で完璧な通訳の3つの領域があるとされます。「雅」へ到達するには、大変な努力が必要です。

## 「ギクシャク」を「正確に」訳す

中国語にかけては日本屈指の達人である戸毛敏美・関西外国語大学教授は、かつて（通訳の）存在すら感じさせないほど対話の中に溶け込むような通訳ができれば、それが「雅」を極めた領域でしょう」と語っていました。戸毛教授は中日経済交流の数々の場面で通訳を担ってきましたが、どんな場面でも語り手と一体であるかのように優雅で完璧な通訳をこなしています。そこには、知識や語彙、理解力、表現力だけでなく、人や事物に対する深い洞察力があると感じています。

さらに、言葉は生き物であるが故に、時に通訳者自身の人生観が訳語に反映されることもあります。例えば、「ギクシャク

クした中日関係」という言葉を訳すとき、「不順利」や「不円滑」といった単語を用いるのが一般的ですが、戸毛教授は「几級波折的日中関係」と訳しています。

敢えて「波折」という言葉を選んだのは、「困難や打撃に遭う」という意味があり、また波のような上下変動を意味するからだといいます。そして、「国交回復までの困難な道のりを振り返ると、ちよつとしたギクシャクが原因で、私たちが築き上げた日中関係がへこたれるわけがない、波は何度も受けてきたのだ」と思う戸毛教授自身の経験と人生観が裏打ちされています。

## 「人格」育成こそ重要

同時通訳などの場で、例えば「中国の経済発展は『きょういてき』だ」と言われて、即座に「驚異的」と「脅威的」のどちらであるかを判断し、そしてどのように表



瞬時の理解力と判断力がき

## 人格育成で裏打ちされた「雅」の通訳 語り手と一体となった領域に達するには

現するかは、通訳の瞬時の理解力と判断力次第です。一方、日本語独特の曖昧な表現をどこまで強弱をつけて訳すかは、語り手の意図を洞察する力にかかってくるでしょう。

上海で現地法人総経理などが必要とする通訳は、一般的な日本語能力の高さのみを求めることが多く傾向にあります。しかし、会話能力は高いのに越したことはありませんが、「通訳は言葉を伝える仕事に過ぎず、日本語が上手ければそれでよし」というのはむしろ危険な考え方です。常に自身の傍らにいて、企業の重要事項も全て知りうる立場にあることを考えれば、通訳は重要なポストであり、分別のある人物であるかどうかを見るべきです。

会議や商談など重要な場で、通訳の理解不足や誤った表現が後々大問題になっ



「空気」のごとく演じるのも通訳の務め 写真提供：日中経済貿易中心

たという事例が過去にも見られました。通訳上の曖昧な判断をそのまま放置しない真面目さと謙虚さを備えているかどうか、通訳の素質を量るための重要な要素なのです。その意味で、通訳の人格の育成はとても大事であるといえましょう。

## 「雅」の領域

一定の経験を積んだ通訳でも間違いを起こすことはあります。多くの場合、言葉の選び方ではなく、（通訳が）語り手の意図を理解していないのが原因だといえるでしょう。普段からコミュニケーションが少なく、表面的な言葉のみを追ってしか訳そうとしない、いわば「信」の領域でしか仕事ができているからです。通訳は、自立つことを嫌う地味な存在ですが、自らの心の代弁者であることとらえて、普段の仕事を通じ、自身の事業観や人間観、ひいては人格までも理解させる努力が必要でしょう。

こうした心の交流を通じて通訳との間に固い信頼関係を築くことができれば、通訳は真に語り手と一体となった「雅」の領域で仕事をこなせるはずで



村岡健司（むらおか・けんじ）氏  
日中経済貿易センター 上海事務所所長  
中国社会科学院 中日経済研究センター  
特約研究員  
上海市外国投資促進中心 高級顧問  
『週刊エコノミスト』（毎日新聞社）「チャイナウォッチ」にて連載中